



真宗大谷派（東本願寺）天満別院

大字城

727号

2025
6/1

大阪市北区東天満1-8-26
06-6351-3535
代表者 輪番・奥林 曉

天満別院崇敬寺院巡り

びばしやざん そくねんじ
毘婆娑山 即念寺

住職 洲崎 善範
住所 門真市小路町二十四番十七号

沿革

即念寺は、真宗の道場として、天和三（一六八三）年に寺号と木仏が許可され、続いて貞享二（一六八五）年に親鸞聖人像が、元禄九（一六九六）年に蓮如上人像が、元禄十一（一六九八）年に聖徳太子像・七高祖像が、それぞれ一如上人（東本願寺第十六世）より許可された。

寛政十二（一八〇〇）年に、庫裡を瓦葺きに改めることを寺社奉行に願い出（平橋久光家文書）、天保七（一八三六）年には喚鐘が鑄造された。大正十一（一九二二）年に本堂を再建した（「門真町史」）。その後戦争、阪神・淡路大震災、台風19号による災害にも耐えてきていたが、老朽化が心配される中、門真市から道路拡張の話があり、再建の機運が高まり令和七（二

〇二五）年四月六日に落慶法要・宗祖親鸞聖人750回御遠忌・御誕生850年・立教開宗800年慶讃・蓮如上人500回御遠忌法要が厳修された。本尊の阿弥陀如来立像【江戸時代（天和三年許可）。像高六十・二センチ。木造。玉眼。漆箔。】は、目が細く顎の尖った面長な顔立ちであり、抑揚の少ない肉どり、横幅の狭い体つき、直線的な衣文などに特徴があり、いくぶん硬さが感じられるものの、全体に端正な整いを示しています。本尊を納めたとみられる嘉永七（一八五四）年銘の木箱が別に保管されているが、像の製作年代は、木箱が造られた江戸時代後期とは考えにくく、作風から判断すれば、木仏が許可された天和三年頃と推定される（「門真町史」）。

現在は修正会、彼岸会、永代経、盂蘭盆会、報恩講等の法要を勤修されており定例法要も毎月開催されている。婦人会が組織され、新年会なども開催されている。

洲崎住職は「昔は若い方に足を運んでいただくという行事の時間を変更していたが、若い方は子育てや介護などで時間が作れず思うようにはいかなかった。現在は、今お参りに足を運んでくださる方を大切にしていきます。二〇二三年、年明けから解体の日まで毎日お朝事をご門徒の皆様と一緒に勤めました。有り難い御縁をいただきました。」とお話しされていました。

法要・行事予定

6月	
9～10	佐世保別院団体参拝
12日	聞如上人御逮夜・永代経 (14時)
13日	聞如上人御命日晨朝兼日中 (7時45分)
17日	責任役員会 (13時)
	院議会 (15時)
18日	存如上人御祥月命日晨朝兼日中 (7時45分)
21日	合唱団「みのり」 (14時)
22日	夏の御文法要 (13時30分)
	祖父江 佳乃師 (名古屋教区 有隣寺)
	「大事をいただく」～親鸞聖人御一代記～
	定期門徒総会 (16時)
27日	宗祖聖人御逮夜 (14時)
28日	宗祖聖人御命日晨朝兼日中 (7時45分)



7月	
11日	從如上人御祥月命日晨朝兼日中 (7時45分)
12日	定例法話 (13時30分)
	上場 直裕 師 (第5組圓徳寺)
	聞如上人御逮夜・永代経
13日	聞如上人御命日晨朝兼日中 (7時45分)
25日	宣如上人御祥月命日晨朝兼日中 (7時45分)
26日	合唱団「みのり」 (14時)
27日	曉天講座 (6時)
	釋 徹宗 師 (本願寺派如来寺)
	宗祖聖人御逮夜 (14時)
28日	宗祖聖人御命日晨朝兼日中 (7時45分)
	法話：輪番



門徒総会のお知らせ

6月22日（日）夏の御文法要終了
後左記の通り天満別院定期門徒総会を開催いたします。門徒の皆さんにはご出席くださいますようよろしくお願いいたします。

記

場所 別院同朋会館一階 講堂
時間 16時～17時ごろ

今月の伝道掲示板

増れる氷、

なんぞ必ずしも

氷ならん。

夏に入るとき

すなわち溶け注ぐ

—空海—

ご家庭仏壇仏具から寺院仏具の設計施工まで
大阪仏壇仏具センター
株式会社 越前屋
0120-06-0401
<https://www.echizenya.co.jp>
服部本店・本社工場
〒561-0858 大阪府豊中市服部西町1丁目8-15
☎06-6862-0401
千里中央店 ☎(06) 6871-0401
十三店 ☎(06) 6300-0401
教養店 ☎(0770) 25-0401

～ご縁を大切に～
日下念珠店
〒600-8174
京都市下京区烏丸通花屋町下る
TEL075-351-6325 FAX075-341-5255
<https://www.kyo-kusaka.jp>

おかげさまで創業120余年
あなたの街の石やさん
株式会社 太田石材店
～仏事その他何なりとお気軽にご相談ください～
フリーダイヤル 0120-305-075
本社
〒536-0001 大阪府城東区古市1丁目23番20号
TEL 06-6930-5075 FAX 06-6930-5078

夏の御文

ゲノオフミ

法要

日時

6月22日(日)

午後1時30分

～3時30分

節談説法

「大事をいただく」

～親鸞聖人御一代記～

説教使

祖父江佳乃師(有隣寺)

ご講師からのメッセージ

浄土真宗のお寺には、戦前、「高座」と呼ばれる、そこに座ると御堂の聴衆全てを見渡せる説教台がありました。説教使はそこに座り、鍛えられた声に選りすぐりの言葉をのせ、扇一本の素話で、阿弥陀様の本願を説きました。阿弥陀様のお使いの役目を担っているから「師」と言う漢字は用いずに「使」と描きます。説教は節(言葉の長さ、速さ、間)を持って語られ、聴衆の感覚、感情に訴える詩的で劇的なものでした。ここから落語、講談、浪曲など話芸と呼ばれるものが生まれました。「話がウケる」という表現は、お聴聞して、いつの間にか口から念仏がこぼれ落ちる「受け念仏」から来ています。説教は阿弥陀様のお取り次ぎです。話芸の源流ではありますが、芸能ではありません。ですから、拍手ではなく、念仏をいただきます。私の祖父、祖父江省念を永六輔さんや小沢昭一さんは「最高にして最後の説教使」と呼んでくれました。ですが私の役目は祖父を最後の説教使にしないことです。いただいたお役目を精一杯。

うれしく たのしく おごそかに

Q&A

ご利益ってどんなやつ？



答え

「利益」という漢字は、私たちの日常語では「りえき」と読みますね。この場合、利すること・ためになることを意味します。「利益をあげる」などと聞くと、なんだか得をした気分になります。私たちの日常生活では、損か得かはとても重要な関心事です。

およそ二五〇〇年前、お釈迦様が生まれになった頃のインドでも、いかに実利(現実の利益)を得るかということは、人生の大きな目的の一つでした。王族としてお生まれになった釈尊もまた、いかに領土を拡

張し、王の利益を増大するかといった実利の学を修められたことでしょう。しかし、実利を得ることに翻弄されつつもやがては死に行く人間のあり方を厭い、出家の道を選ばれました。損得を超えるあり方を探求されたのです。

お釈迦様が立たれた道は、仏の道でした。仏の道とは、私たち衆生をすべて救おうという道です。

「利益」を仏教では「りやく」と読みます。「ご利益」と聞くと、俗語の意味に引きづられて、病気を治し、寿命が伸び、金銭や名誉などを得ることを思い浮かべるかもしれません。しかし、実は、そうした人間の願望を超えた道が、仏様から自然に与えられていることを意味します。「ご利益」とは、世間的な損得を超えて、仏様のお救いに私たちがあずからせていただいているということなのです。

(7組 了願寺 安間 観志)

報告

研修部会主催

公開講習会開催

去る5月9日(金)に天満別院教化委員会研修部会主催による儀式軌範についての公開講習会が行われ24名の方々に参加していただきました。ご講師には真宗大谷派儀式指導研究所研究員の竹橋太師にお越しいただきました。



竹橋 太師

師は、「本願寺第八世蓮如上人の十男実悟が若い頃、山科本願寺には御堂衆と呼ばれる方々がおられ、儀式と教学を専門にされていた。我々は儀式と教学をつい別々に考えてしまう。儀式を行うとはどういうことなのか？それは、技



講義を受けられる様子

術的な話になってしまおうと我々の考えでは自力や他の人より上手いなどといった優秀の考えが出てしまう。我々が儀式を行うとは、儀式作法と教学が信心の表現として表されている。自分自身の信心を表していく中で諸先輩や先人たちの教えを受けていくのが大切です。」と話されていました。

皆さん熱心に講義を聴聞され、「儀式と教学について改めて考えるご縁をいただきました。」とお話下さる方もいらっしやいました。